

演劇フェスティバル 2024 自主公演 審査会

12月27日 19:00～

■出席者（敬称略）

審査員

近江木の実

蔭山ひさ枝

鈴木まり

田ノ口誠悟

藤津もな

司会

松本俊一

オブザーバー

寺田景一

■審査結果及び審査過程

最優秀作品賞

MUNA-POCKET COFFEEHOUSE

「紙」

審査過程

審査員5名のうち、4名が、MUNA-POCKET COFFEEHOUSE「紙」を推した。

1名が、劇団からっかぜ「切り子たちの秋」を推した。

MUNA-POCKET COFFEEHOUSEの芝居、とりわけ、永井宏明氏の作・演出に対する、評価が高かった。2人の男女の、一部屋での、別れ話から始まる、両者の認識のズレが、加速度的にまきおこす混乱=経済、政治、宗教、戦争、と目まぐるしくテーマが移っていく演劇空間を、見事な俳優のアンサンブル、照明、音響で、極めて演劇的に表現されていた。

また、話のスケール感も大きく、現代の複雑な社会事象を描くことにはかなり成功していた。いま実際に浜松で暮らす若い世代の気分、問題意識を的確に描いているのではない。今、観るべき、演じるべき作品だと思われるような勢いを感じた。などなど、

いろいろな観点からの発言があり、この作品の重厚な内容を思わせた。私の表現では、書きつくすことができないのでぜひ、議論に出た多様な観点の内容については、審査員各位の劇評を参照されたい。一方で、昨年作品のほうが良かった。紙飛行機を飛ばす演出等で、もっと違う見せ方もあったのでは？という意見もあった。

次点の、劇団からっかぜの「切り子たちの秋」も、劇団創立70年の歴史を感じる、堂々たる作品だったとの声が、すべての審査員から出た。舞台美術のしっかりとした造り、役者の力量、照明、音響等の総合力において、評価が非常に高かった。想像力を刺激し得るリアルな、演劇だ。3代にわたる親子、家業や仕事についての普遍的な問題をよくとらえていた。上の世代と若い世代の価値感の対立がよく描かれていた。という意見等があった。こちらも、ぜひ、審査員各位の劇評を参照されたい。また、ラストに向けての筋立てが、やや予定調和的であり、既視感を覚えたとの意見もあった。

やらまいか賞

演劇ユニット FOX WORKS

「MAGICIAN'S WORTH」

審査過程

審査員5名のうち3名が、FOX WORKSの「MAGICIAN's WORTH」を、推した。そして他1名からは、作品そのものではなく、「MAGICIAN'S WORTH」の舞台美術に与えるのが良いのではないかという意見も出た。

演劇ユニット FOX WORKSの演劇とは？エンターテイメントとは？芸術とは？といった根源的な問題に、果敢にチャレンジした姿勢が、やらまいか賞に最もふさわしいのではないかという意見が多かった。ことに舞台上で、マジックショーや、謎解きを、観客参加といった形で実現した試みが評価された。また、その試みを支える美術、脚本も評価する声もあった。一方で、会場が、広がったために、後ろの席では、マジック等の臨場感が、伝わらなかった。面白い仕掛け、が、ドラマそのものに反映するところまでには至らなかった等の意見もあった。こちらも審査員各位の劇評を参照されたい。

優秀俳優賞

- ・ 阿南真司さん(MAGICIAN'S WORTH)
- ・ 中村左絵子さん(切り子たちの秋)
- ・ 杉浦利夫さん(翔んで浜松)
- ・ 阿部美幸さん(翔んで浜松)
- ・ ナカムラヨシコさん(紙)

審査過程

阿南真司さんは、演技力、立ち姿、声、中村左絵子さんは、いい役どころをうまくものにした、杉浦利夫さんは、天性の明るさ、台詞が明瞭、元気が良かった、阿部美幸さんは、演技力、センスの良さ、ナカムラヨシコさんは、いい役どころをうまく魅せていた、など、評価された。最終決定は、審査員全員の了解を得たものである。今回は、主役クラスよりもバイプレイヤー的存在に光が当たる結果となった。

他には

- 現代の社会をどの作品も、反映している-断絶 自信のなさ 不満 不安
- 浜松の演劇は、社会派、社会性の高い作品が多い。
- 浜松の演劇は、若い年齢層の観る芝居と、年齢の高い人達の演劇が、分断されている。こんな話も、審査会では、飛び交い、各審査員の方々のお人柄や社会的立場、人生が、批評にも反映していて、面白く、充実した審査会だった。

最後に

今回は、昨年と比べて、作品賞については、一つの作品に票が集まって簡単に決まったかの印象を与えるかもしれない。しかし、その実際は、どの作品も評価が高く、悩ましい審査会であったことに変わりなかったと思う。

シニア劇団浪漫座「翔んで浜松」については、あまり触れられなかったので記す。観客と舞台の距離が、近く、熱く、祝祭的な、色合いの強さにおいては、むしろ昨年以上の評価もあり、高評価だった。また、全編において、安心して楽しめた、という意見もあり、そのエンタテインメント性も評価する声も多かった。こちらも審査員各位の劇評を参照されたい。一方で、バラエティ色が、強く、演劇として評価すべきか疑問、という声もあった。